

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価員 佐々木 小次郎

1 教育委員会

新教育委員会制度となり、過去の教育委員会制度との違いを検証すべき時期になってきているのではないかと思います。新教育委員会制度を取り入れたのは、それだけのメリットがあるからだと思いますが、そろそろその功罪を、具体的な事例を基に検証することが大切だと考えます。新しい制度というのは、とかくいろいろな誤差や考え違い等を生み、当初の期待どおり機能するとは限らないと考えます。できれば、当初の発想や計画との考えのぶれが小さいうちに、改善できるものは改善すべきと考えます。

守谷市教育委員会は、守谷市教育委員会会議規則を基に、会議だけでなく、現場の意見に基づいた議論を行うため、各現場の行事や研修会に参加するなど活発な活動に努めたといっています。これは極めて大切なことと考えます。事実、教育委員の活動は多岐にわたり素晴らしいことだと思っています。他の市町の教育委員会議の状況を聞きますと、会議ばかりで、せいぜい各小中学校の卒業式に出る程度だとの話を耳にします。現場は教育委員の顔も知らないという現状です。それに引き替え、忙しい中、守谷市の教育委員の活動には頭が下がります。

また、総合教育会議が3回行われましたが、市長部局と教育委員会が共通の認識を持って、教育行政を行うことが重要であって、その成果も出ていると考えます。

2 学校教育・指導室事業

(1) 教室環境の整備・充実

教室環境の整備については、施設・設備の経年劣化による対応、災害や事故による対応、そして新しいニーズによる対応等、常に対応を迫られる問題です。長いスパンの計画を持ちながらも、突発的な対応にも臨機応変に対応できる柔軟性も必要とされます。また、これらは、大きな予算を伴うものが多く、できるだけ補助金を有効に使い、市単独予算をできるだけ軽減するという考えは極めて重要であり、評価します。市の予算を使わないということは、他の事業にまわせるということで、新しい事業も可能となります。

取組の中の、児童・生徒用机天板交換事業（いばらき木づかい環境整備事業）については、とても評価したいと考えます。頭で考える地元と実際の地元産の天板を使うということは、大きな違いがあると考えます。地元産の木を使っているということ、常に考えさせることは、知らず知らずのうちに、地元について考えるということです。ぜひ、これからの生徒にも語り継いでほしい事業と考えます。

教室環境の整備・充実の今後の課題として、大規模改修におけるエレベーターの設置について触れられていますが、この視点を持っているということに安心感を覚えます。今社会では、共生社会の必要性が叫ばれており、その基本であるインクルーシブ教育の重要性がうたわれています。時間も予算も掛かるとは思いますが、努力を期待します。

通学路の安全点検については、着実に成果を上げていることは高く評価します。保護

者等の希望と警察をはじめとする関係機関等の板挟みで大変とは思いますが、今後の継続的な努力に期待します。

(2) 学校教育プラン

① ステップアッププラン（確かな学力の育成）

学校教育にとって、児童生徒一人ひとりに確かな学力を身に付けさせるということは極めて大切なことです。それは、思考力・判断力・表現力を身に付けさせ、達成感や自己存在感また自己有用感を育て、それが「生きる力」の重要な要素になるからです。そして、問題行動や非行に走る生徒の多くは学力の低い子に多い現実があるのは残念である。児童生徒に確かな学力を身に付けさせることは極めて重要な教育的課題である。そういう観点から、守谷市の教育を見ると、「守谷市の学校教育」「学びのプラン」「保幼小中一貫教育」によって、基礎である土台を作り、その土台の上に「家庭学習のてびき」や人的配置、環境整備という基本の柱を作り、そして、それが各学校の実践を支えているということは、広い視野に立った教育を行おうとしていることであり、高く評価できると考えます。各学校の取組を見ても、教育委員会の取組が着実に教育現場へとつながっていることが伺えます。

具体的な点では、少人数加配教員、学習支援ティーチャー、理科専任員、社会人ＴＴ、介助補助員などの充実した配置。また、先進的なＩＴＣの取組、これらの積極的な取組が守谷市の児童生徒の学力の高さを支えているものの一つと思います。

② ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

「教育の目的」のひとつは、人格の完成を目指すことです。そのためには、「知・徳・体」のバランスの取れた教育をすることが大切です。しかし、現実には、学力向上のみがクローズアップされている傾向にあり、教育の目的である「人格の完成」が置き去りにされているという気がしてなりません。学力は人格を形作る要素ではありますが、学力によってのみ人格が完成されるわけではありません。また、学力は結果が比較的分かりやすく、焦点になりやすいのです。豊かな心を育むことは、結果が分かりにくく、時間の掛かるものです。しかし、かといって、なおざりにしてよいものではありません。この観点から守谷市教育委員会は、いち早くこの問題についても取り組んでいます。基本的な生活習慣の確立と基本的な行動様式について、全市的に取り組んでいます。「道徳教育の充実」や「守谷しぐさ」等で、守谷市の教育のあり方を示しています。大変意義のある素晴らしい取組だと思います。日々、守谷市の小中学生を見ていますと、秩序があり、規範意識にも優れていると思います。これは一朝一夕でできることではありません。地道な努力のたまものです。今後もこの状況が続くようお願いします

「いじめ問題」については、全国的に大きな問題となっていますが、教育委員会においても重要視し、「守谷市いじめ実態調査」を毎月行い、積極的ないじめ問題の認知、援助指導、また、関係機関等の連携による早期解決に努めていることは、高く評価します。また、各学校でもこの課題について、児童生徒を中心に積極的に取り組んでいることも評価します。しかし、調査による認知、指導、援助ということはもちろん大切ではありますが、いじめない人間を育てること、いじめが起こる前に消滅させることが大切です。

いじめの元凶は沈黙です。いじめられている者が黙り、いじめている者も黙り、そして見ている者・知っている者も黙るという構図がいじめを大きく、悲惨なものへと変えていくのです。民主主義の重要な要素の一つである、「不利益なこと、不正なことに黙ってはいない。」ということ各学校、各学級で取り組んでいかなければならないと考えます。そのためには、毎日のホームルームなどを積極的に研究するとともに、道徳のあり方も研究する必要があると思います。

昨年度も書きましたが、平成28年度から新しい取組として「守谷市総合教育支援センター」が設立され、心の相談員事業・教育相談員事業・適応指導教室事業が統合され、より機動性のある、柔軟性のある支援を実施できるようになったことは、とても意義あることと高く評価します。今後の運営の充実に期待します。さらに、個の精神的な力をどのようにして強化していくかも今後の課題と考えます。

③ ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力を育む教育の推進）

人生100年時代が叫ばれる昨今、健康な体がその基盤となることは言うまでもありません。その中心が、教育委員会の目標である「食育」と「体力の向上」であろうと思います。守谷市の児童生徒の体力については、中学生の体力が飛躍的に向上したことは評価に値すると思います。今後の継続を期待します。食育については、昨今、いろいろなところでその重要性が認識されてきています。栄養教諭の配置の増加も、大きな影響を与えています。学校での食育はもちろんのこと、課題は家庭への啓蒙と指導が大切と考えます。共働き家庭が大半を占め、十分な食育が家庭でなされているとは考えづらいと思います。また、子どもだけの個食の問題、家庭による格差等課題は山積みです。地道な努力をお願いします。

健康教育や食育については、基本的な行動様式や豊かな心を育む教育とも関連しており、横断的な指導が必要と考えます。

④ ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

教育委員会は、新しい時代に対応した教育の柱を国際理解教育・情報教育の推進・キャリア教育の推進の3つを中心に掲げ、将来に生きる子どもたちが、自らの力で生きる力を身に付けてほしいと考えています。いずれも、教育の今日的課題として重要なことと考えます。ALTの早くからの全校配置や英語検定取得率の高さは、その努力のたまものです。そして、年とともに向上していることは高く評価します。これは、将来のグローバル化を目指したものであり、情報教育もその一つであります。これらの施策も多くの予算を必要とする中で、教育委員会の努力に敬意を表します。

キャリア教育は、将来の自分の生き方や職業に対するデザインを描くに当たってとても重要です。職場体験の事業所探しは、全国どの地域でも苦労しているところです。学校だけでは厳しい現状があります。教育委員会にキャリア教育推進のチームを作ることも必要と考えます。学校だけでは難しいと思います。

3 給食センター事業

守谷市では6500食以上に及ぶ給食を、毎日、安全に作り続け、子どもたちに届け

ていること、それも二献立制であることにまず敬意を表します。最近ではアレルギー問題やO-157等の問題、また調理員の確保の問題等、課題が山積みの中、努力されていることは高く評価します。給食センターは、子どもに食事を提供するとどまらず、健康の保持増進、健全な食生活、明るい社交性及び共同の精神を養うこと等々いろいろな目標を掲げ、実践されていることに敬意を表します。

給食センターの建物は34年が経過しているとのこと。当然、施設・設備の老朽化による不具合により、修繕や機器の取り替え等が多く発生してくると思えます。急には難しいとは思いますが、まだ使用に耐えるうちに、今後の守谷市の給食について長期ビジョンを考えるタイミングにきているのかとも考えます。市が続けるのか委託という方法はないのか、センター方式を続けるのか、自校式や近隣の学校で作る自校複合式か、弁当と給食の選択制はどうか、等々。もう始めているのかかもしれませんが、検討を望みます。

また、給食センター方式の欠点は、給食を作っている人たちの姿が見えず、感謝の念が具体的に湧きにくいところにあります。このことも含めて検討を望みます。

4 生涯学習事業

守谷市の生涯学習事業は

- 1 自主的サークル活動の支援と学習機会の提供
- 2 生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援
- 3 親しみを感じる芸術・文化の推進
- 4 文化財を愛する心の育成
- 5 安心して遊べる場の提供

の五つの事業を中心に行っています。人生100年時代と言われるこれからの時代、守谷市民のニーズに応えた事業の展開がとても重要と考えます。生涯学習は、学校教育と違い、長い時間の中での事業展開は大変苦勞の多いことだと思います。それぞれの年代にあった事業への拡大。それぞれのニーズに合った事業の展開等、広範囲の事業展開が要求されます。基本は「知・徳・体」と考えます。文化的な事業・スポーツ的な事業、芸術・文化そして文化財の事業。市民ニーズに根ざした事業のますますの拡大と充実を期待します。

〈総括〉

教育委員会全体評価

PKO部隊の中で、日本の自衛隊は規律が正しく、略奪等もなく、現地人から尊敬されているという。東日本大震災の時の日本人の整然とした行動は世界を驚嘆させたという。また、ワールドカップの日本戦後のサポーターが負けても、応援席を掃除をして帰るということが話題になった。

日本人のこの行動は、いったいどこから生まれたのか。日本の伝統か、家庭のしつけか、それもある。しかし、現代の社会情勢を考えると、学校教育とそれを支える関係機関の地道な努力の積み重ねが大きな力となっていることは論を待たない。教育は国の礎であり、この国の未来を決めるものである。そういった観点から守谷市教育委員会の

施策を考えると、教育行政として、現場のために、できる限りの教育環境を整え、予算を生み出し、指導を積み重ねていることに大いに敬意を表するものである。他の市町村と比べると、全ての面において先進的であり、着実である。それは、守谷市の児童生徒が物語っている。

今後もこのような思いで教育行政を实践されることを希望する。要望があるとすれば、各学校が教育委員会に頼りすぎているのではという危惧がある。教育委員会の施策を踏まえつつ、学校独自の思い切った経営を期待します。